

早稲田現代中国研究拠点（WICCS）研究班

1. 研究班名称	村と農民研究班
2. 研究班の主旨	<p>中国農村部、特に内陸部では、他地域への出稼ぎが常態化している。また、戸籍制度等の中国独自の制度的要因もあり、農村で現在生活している人の中にも過去に地域外での就労経験をもつ人は少なくない。このことは、地域社会において、一定数の人口、しかも一定の特徴を備えた人々（相対的に高学歴、青壮年）が突出して減少していると同時に、流出者自体は絶えず入れ替わるといった動的な状態が発生していることを意味する。また出稼ぎ先から戻った人々は、経済力や価値観等の面で、従来比較的同質性を有していた流出地に異質さをもたらすことにもなる。そうすると、出稼ぎ現象は、流出地の経済発展やコミュニティの運営、安定した秩序形成にとっては不安定要因ともなりえる。余剰労働力を抱える中国農村部では、上記のような動的な状態の中で、その不安定要因を解消し、むしろそれを地域の経済社会発展につなげることが求められると言える。</p> <p>本研究班は、こうした地域発展のメカニズム形成の可能性について検討を行うものである。農民工流出地において、地域の人々の生活の安定や向上につながる構造変化や制度の形成はなされてきているのであろうか。地域の経済構造の変化の側面だけでなく、帰郷者のその後の生活や地域の生活環境・福祉の水準の変化を具体的に追いながら、それにかかわるフォーマル（地方政府の施策等）・インフォーマル（地縁・血縁のネットワーク）な制度の実態や変容を明らかにする。</p>